

フロアトップエポワン

施工仕様例

(コーティング(1)工法) 工法記号ESO-I アクリル系既存塗膜の上の塗り替え仕様

工 程	製品名	稀釈量	塗布量 (kg/m ²)	施 工 方 法	塗装間隔 23℃(時間)
1 下地処理	-	-	-	既存塗膜はポリリッシャーサンダー(＃40より細かいペーパー)により、全面サンディングを行います。既存塗膜が剥がれているコンクリート素地は、予め＃800プライマーを塗布します。油污れ等をシンナーで拭き取る場合は、既存塗膜が一液のとき、既存塗膜の膨潤に注意します。	-
2 上 塗り	エポワン	-	0.3~0.5	主剤：硬化剤=5：1(重量比)で電動攪拌機で攪拌混合し、予めスパン割りした下地に流し、ローラー刷毛で塗り広げます。	乾燥24以上

(コーティング(2)工法) 工法記号ESO-V 新設仕様

工 程	製品名	稀釈量	塗布量 (kg/m ²)	施 工 方 法	塗装間隔 23℃(時間)
1 下地処理	-	-	-	・コンクリート打設後、4週間以上経過していることを確認し、含水率を必ずチェックします。 ・下地目荒らしのサンディング処理は必ず行い、素地に付着しているレタンス、ごみ、油なども除去します。	-
2 下 塗り	＃800プライマー	-	0.2	主剤：硬化剤=1：1(重量比)で攪拌混合し、ローラー刷毛で塗布します。	2~24
3 上 塗り	エポワン	-	0.3~0.5	主剤：硬化剤=5：1(重量比)で電動攪拌機で攪拌混合し、予めスパン割りした下地に流し、ローラー刷毛で塗り広げます。	乾燥24以上

※塗装間隔は最短時間と最長上塗り可能時間です。

可使用時間(ポットライフ)

タイプ	気 温	10℃	15℃	20℃	25℃	30℃	使用時期
夏 型	可使用時間	使用不可	使用不可	30分	20分	20分	7月~9月
	歩行開放時間	-	-	24時間	20時間	16時間	
春秋型	可使用時間	使用不可	40分	30分	20分	使用不可	4月~6月 10月~11月
	歩行開放時間	-	24時間	20時間	16時間	-	
冬 型	可使用時間	40分	30分	20分	使用不可	使用不可	12月~3月
	歩行開放時間	24時間	20時間	16時間	-	-	

注意事項

1. 塗装(施工)前の注意

- (1) 5℃以下の場合には、塗装を避けてください。
- (2) 降雨・降雪・高温(85℃以上)・高温湿気及びその恐れがある場合には、塗装を避けてください。
- (3) 下地調整は、塗料の付着力を決定する重要な工程です。施工仕様例等を良くお読みの上、充分注意して行ってください。
- (4) 付着しづらい既存塗膜(不飽和ポリエステル、電気硬化ウレタン、塩化ビニル、合成ゴム等)がありますので、事前に必ずご確認ください。
- (5) 既存塗膜が下地と密着しているか、事前にご確認ください。密着していない場合は除去が必要です。

2. 塗装(施工)中の注意

- (1) 静電気が溜まっている場合には、十分に乾燥させてから次の工程に着手してください。
- (2) プライマーの乾燥後、時間を開け過ぎると、上塗り塗料との付着力が低下する場合があります。プライマーとその次の工程までは、同一日に塗装するようお願いいたします。
- (3) 塗装中は、換気を良くし、火気の取扱いは厳禁してください。
- (4) 二液性塗料の計量、混合攪拌は、はかり及び電動攪拌機を用いて行ってください。(目検計・棒での攪拌は硬化不良になります。)
- (5) 可使用時間(ポットライフ)が短いので、ローラー刷毛で付け塗ると、短時間で塗料が増粘し塗りづらくなります。主剤と硬化剤混合後は必ず塗面に流し、ローラー刷毛で塗り広げてください。
- (6) 塗料を小分けする場合は、必ず小分け前に十分に攪拌し、均一にした後にはかりを用いて計量、混合してください。
- (7) 主剤と硬化剤を混合したまま放置すると硬化が進行し発熱します。その際容器に熱すると火傷をする恐れがありますから、混合した塗料は出来るだけ早く使い切ってください。発熱が進みますと沸騰し蒸気が発生しますので、容器内に水を10cm位入れて、屋外に持ち出しフタをしないて固めてください。
- (8) 有機溶剤を使用した塗料のため周辺での火気、スパーク、高温物は使用しないでください。
- (9) 静電気対策のため、使用する装置などは接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用してください。
- (10) 取扱に当たっては皮手・粘膜・目などに入らぬよう、適切な保護具を着用ください。
- (11) 溶剤での稀釈、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。

3. 塗装(施工)後の注意

- (1) 湿度が高い時、気温の低い時は乾燥が遅れる場合があります。
- (2) ごく僅かですが溶剤を含んでおりますので、厚塗りすると(0.6kg/m²以上)乾燥が遅れる場合があります。
- (3) 塗装具の洗浄には合成シンナーNo.6をご使用ください。

4. 塗装面別の注意

- (1) 新設コンクリートは最低4週間以上の養生が必要です。素地コンクリートに水分が多い場合は塗装を避けてください。塗装前に素地面にポリシート(1m以上)を張り付け、翌日、素地面に黒くなら、ポリシート内面に水滴の付着がないことを確認した後塗装してください。(湿気水分計H-520で測定した場合の水分量が0モードで700以下、チャンネル4で5%以下を目安とします)
- (2) 強化コンクリート面・油の付着している強化コンクリート面に塗装する場合、下地処理の方法や下塗料の種類が異なりますので、当社にお問い合わせください。

5. 全般の注意

- (1) 製品ご使用の際には、当販物物の他、製品本体記載の注意事項及びMSDS(製品安全データシート)をよくお読みください。
- (2) 改良等のため、製品の身中、仕様・販物物の内容等は将来予告なしに変更する場合があります。
- (3) 当販物物に表示してあります塗り面積、工法はあくまでも設計上の標準的な数値です。塗装の際の諸条件によって増減する場合があります。
- (4) 製品本体及び当販物物に記載されている、定められた用途以外には使用しないでください。またご使用方法等につきましてご不明な点がございましたら、必ずご使用前に当社にお問い合わせください。

プライマーの有効な使い方

1. 素地状態から見たプライマーの選び方

素地の状態	最適なプライマー	内容量(比率)	塗布量 (kg/m ²)	塗り面積 (m ²)	乾燥時間 23℃(時間)	可使時間 23℃(時間)	用毛洗
普通コンクリート	#800プライマー	16kgセット 主剤:硬化剤 1:1	0.15~0.2	80~100 30~40	2~3	5	合成シンナーNo.6 又はラッカーシンナー
	#800TYプライマー	12kgセット 主剤:硬化剤 1:1	0.15~0.2	60~80	2~3	5	合成シンナーNo.6 又はラッカーシンナー
	アトム水性エポプライマー	16.2kgセット 主剤:硬化剤:骨材 6:6:3.2	0.15~0.2	70~100	3~4	2	水
	エコワイドプライマー	12kgセット 主剤:硬化剤 9:3	0.15~0.2	60~80	3~8	5	合成シンナーNo.6
	プライマーU	16kg 5kg	0.15~0.2	80~100 25~30	1~2	—	合成シンナーNo.2
油で汚れたコンクリート	#500油面プライマー	20kgセット A材 10kg B材 10kg	0.4	50	(※1)	3 (※2)	合成シンナーNo.2
強化コンクリート(※3)	強化コンクリート用 プライマー	10.5kgセット 主剤:硬化剤:添加剤 6:3:1.5	0.1	105	3~4	2	合成シンナーNo.6
Pタイルの縫のあと	セブンプライマー	16kgセット 主剤:硬化剤:骨材 4:6:6	0.4	40	12	1	水洗い後 合成シンナーNo.6 又はラッカーシンナー
既設アスコンへの #1100、#1000の塗装	ASプライマー	14kg	0.1	140	1~2	—	合成シンナーNo.2
新設時の水分の高い コンクリート	ウェットオンプライマー	15kgセット 主剤:硬化剤 5:1	0.1~0.15	100~150	2~3	4	合成シンナーNo.8
水に濡れたコンクリート	ウェットガードプライマー	18kgセット 主剤:硬化剤:骨材 6:3:9(※4)	1.6	11	3	20分	合成シンナーNo.6
無機タイル、自然石 (ツルツルの表面)	タイル用プライマー	6kgセット 主剤:硬化剤 3:3	0.06~0.1	60~100	0.5~1	8	合成シンナーNo.6
U-#90・U-100NEOの 塗り替え	プライマーU	16kg 5kg	0.1 (※5)	160 50	2~3	—	合成シンナーNo.2

(※1) 上塗り可 ①液型塗料の場合: 3時間以上5時間以内 ②ワックスや油が付着している場合、十分な効果を発揮できません。
 上塗り可 ②液型塗料の場合: 3時間以上24時間以内 ③骨材は別売となります。
 (※2) 日材が沈まないようにローラーで押しながら塗布してください。 (※4) U-#90・U-100NEOの場合は合成シンナーNo.2で100%希釈してください。

2. プライマー別上塗り塗料の適否

上塗り	#800	#800TY	#500油面	U	セブン	ウェットガード	ウェットオン	強化 コンクリート用	タイル用	水性エポ	エコワイド
#1000・#1100	○	×	○※	×	○	—	×	○	○	○	○
#1400	○	○	○※	×	○	—	×	○	○	△	○
#5000・#5200・#5400	○	○	△	○	△	—	○	○	○	—	○
#6000	○	×	○	×	△	—	○	○	×	—	○
#7000	○	○	○	○	△	○	△	○	○	—	○
#7000+マークレス	○	×	○	○	△	○	×	○	○	—	○
#8000	○	○	○※	×	○	○	○	○	○	○	○
#8500	○	○	○※	×	△	○	○	○	○	—	○
#8500速乾	○	×	○	○	△	○	×	○	×	—	○
U-#90・U-100NEO	×	×	○	○	○	○	×	○	○	△	○
タフモル	○	○	○※	×	○	—	○	○	○	—	○
マークレス	×	×	○	○	×	—	×	○	○	—	○
水性アトムエポクリン	○	○	○※	×	○	○	○	○	×	○	○
エポワン	○	○	○※	×	○	○	○	○	○	○	○
クイックアンダー	○	○	○※	×	○	○	○	○	○	—	○
アクアクリンU	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○

○: 上塗り可 △: 条件により上塗り可 ×: 不可 —: 仕様なし ※: A材のみ使用の場合は付着しません。
 ・上塗り塗料の適定はご使用条件にあわせてお選びください。
 ・#500油面プライマー及びセブンプライマーの上塗りに薄膜型を塗装する場合は、仕上がりにガラツキが出ます。
 ・ウェットオンプライマーに関しては当社までお問い合わせください。ウェットガードプライマーは珪砂散布のニート工法に限りません。

■製品の注意

- (1) 製品ご使用の際は、当製品物、製品本体記載の注意事項及びMSDS(製品安全データシート)をよくお読みください。
- (2) 改修などのため、(1) 製品の途中・仕様 (2) 販売物の内容などは将来予告なしに変更する場合があります。
- (3) 性能表示に示してあります塗り面積、工法はあくまでも設計上の標準的な数値です。塗料の厚の諸条件によって増減する場合があります。
- (4) 製品本体及び当製品物に記載されている、定められた用途以外には使用しないでください。またご使用方法などににつきましてご不明な点がございましたら、必ずご使用前に当社にお問い合わせください。

フロアトップ相互付着表

上塗り 既存塗膜	#1000	#1400	#1500	#5000 #5200 #5400	#8000	#7000	#8000	#8500	#8500 速乾	U-#90 U-100 NEO	#7000 マーク レス	エポ クリン U	アクア クリン U	エポワン	#9000	クイック アンダー
フロアトップ #1000	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
フロアトップ #1400	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	○	○	○	×	○
フロアトップ #1500	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	○	○	○	×	○
フロアトップ #5000・#5200・ #5400	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	○	○	○	×	○
フロアトップ #6000	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
フロアトップ #7000	●	●	●	□	×	○	●	●	○	□	○	●	●	○	×	●
フロアトップ #8000	△	△	△	△	△	☆	△	○	△	□	□	○	○	○	●	△
フロアトップ #8500	△	△	△	△	△	☆	△	○	○	□	□	○	○	○	●	△
フロアトップ #8500速乾	△	△	△	△	△	○	△	○	○	□	□	○	○	○	●	△
フロアトップ U-#90	×	×	×	×	×	×	×	×	×	□	□	×	×	×	×	×
フロアトップ U-100NEO	×	×	×	×	×	□	×	×	×	□	□	×	○	×	×	×
水性アトム エポクリン	○	○	○	△	○	○	△	○	○	□	○	○	○	○	×	○
アクアクリンU	○	○	○	△	△	○	○	○	○	□	○	○	○	○	×	○
エポワン	△	△	△	△	△	☆	△	○	○	□	□	○	○	○	●	△
フロアトップ #9000	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	■	×

※このデータは、既存塗膜が1ヶ月以上経過した場合のコンクリート上における各種上塗り塗料との層間付着性です。
 アスファルト上における#1000の塗り替えには、#1000を、又#8000の塗り替えには#8000を使用してください。
 この相互付着表は既存塗膜が素地と密着していることを条件としています。

- サンディング後、直接上塗り可能
- △ サンディング後、#800プライマーの塗装により上塗り可能
- サンディング後、プライマーUの塗装により上塗り可能
- ☆ サンディング後、プライマーUもしくは#800プライマーの塗装により上塗り可能
- × 付着せず、または仕様なし
- サンディング後、#500油面プライマーの塗装により上塗り可能
- サンディング後、#900プライマーの塗装により上塗り可能

- ※1 塗布時にチヂミの発生する可能性があります。
- ※2 次回の塗り替え時に溶剤型塗料を塗装するとチヂミの発生する可能性があります。
- ※3 仕上がりに#500油面プライマーの骨材の影響(ガラツキ)が出ます。
- ※4 既存塗膜の下にある塗膜が1液タイプの場合にはチヂミの発生する場合があります。
- ※5 クラックが発生する可能性があります。

(注) #7000に#800プライマーは付着しません。